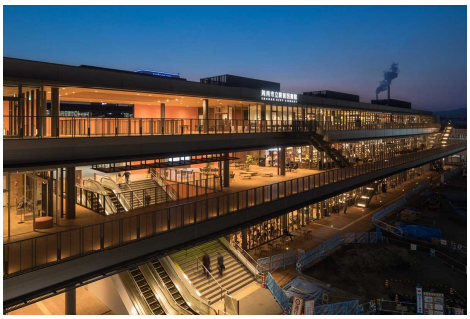
Keep on exploring！

Graduate School of Educationミドルリーダーセミナー
（ちゃぶ台次世代コーホート Advanced Course）通信
NO. 2 2019. 9. 10
山口大学大学院教育学研究科教職実践高度化専攻（教職大学院）

問題を軽視せず、迅速かつ組織的に対応する!

～ 集団構造と適応性の観点から「いじめ」をとらえて ～



8月31日、「第2回研修会 in 周南地域」を開催しました!

研修会前後の雨、雨、雨の日々が嘘のよう…。好天に恵まれた「第2回研修会」は、8月31日（土）午後、教職大学院の地域貢献事業として、「周南市徳山駅前賑わい交流施設（JR徳山駅ビル）」で開催しました。

今回も各地から、現職教員33人、教職大学院生（学部卒）12人、講師1人、山口・徳山大学教職員12人の計58人が集いました。周南地域（周南市や光市）からの参加もあり、深い研修会でした。報告します。

① 講義演習 「生徒指導上の諸問題～いじめの特徴と予防のための戦略」

講師 香川大学大学院教育学研究科高度教職専攻 准教授 金 綱 知 征 さん

いじめをはじめ生徒指導上の諸問題について、長年ご研究や学校現場での実践研究を積み重ねていらっしゃる金綱先生。ロンドン大学以降の研究・実践成果、各地の「いじめ問題対策協議会」での指導実績等をふまえて、理論と実践両面からの質の高い講義演習をいただきました。まさに「傾聴深思」で克服すべき喫緊の教育課題をみんな真剣に学びました。金綱先生には研修行事最後までお付き合いいただきました。

金綱知征先生、本当にありがとうございました。また、ぜひ山口にてご指導をお願いします。

ありがとうございました！（受講者の感想から）

日本では、世界に先駆けていじめの研究がされているにもかかわらず、いじめが無くなっていない事実、世界的にいじめが問題とされている事実等、政界情勢も含めた現状も知ることができ大変勉強になった。高校におけるいじめの集団的構造は、進学校においては日々の授業や宿題などに追われ、そして目標等も高いため、「③観衆」「④傍観者」がある程度「仲裁者」として機能していると感じる。本人にも自己肯定感（自尊感情）が少なからず学力的な部分において存在するためだと考える。また、保護者の家庭環境も良好な部分があることも影響していると考えた。底辺校においては、③や④の指導が入りにくいため課題が存在すると考えられ、自尊感情を高めつつ、如何に良好な雰囲気づくりをしていくかが底辺校の課題と考えた。「いじめる側（加害者）は適応者であり、メリットがある」という部分は強く賛同した。指導、判断においても、教職員側のズレが指摘されており、共通理解をしっかりすることが重要であると考えさせられた時間であった。（教員）

金綱先生のご講義では、冒頭の「小学校低学年のいじめ件数が非常に多い」ということがまず衝撃でした。中学生が圧倒的に多いと思っていたので驚きました。また、何年か前と現在のいじめ把握件数の違いから、まだまだ確認しきれていないいじめが多いのだろうと感じました。いじめについては、「問題行動対応マニュアル」で少し確認していた程度だったので、今日のご講義は大変勉強になりました。特に「いじめ対策の３本柱」のお話と、「子どもたちが安心できる環境を教師が作ってあげなければいけない」というお話でした。「いじめの３本柱」については、「いじめの認知」「情報の共有」「組織的対応」にしっかり取り組んでいく必要を改めて実感しました。特に「情報の共有」に関しては、グループ討議の際にも先生方がその重要性を教えて下さったので自分が現場に出た時にもしっかり意識していきたいと思いました。「子どもたちが安心できる環境づくり」に関しては、実現していくのは大変難しいこととも思います。しかし、これがいじめの減少につながっていくのは明らかだとご講義の中で感じたので、そのような環境づくりについて模索していきます。（院生）

② 各学校での実践発表・交流とピア・サポート 「私の学校のいじめ対策（実践構想とリーダー）」

後半は校種別10グループで「実践構想シート」を使ってワークを行いました。
みんな「宿題」をきちんとやってきて…さすがです。
校種、学校立地や規模等により全く事情や状況は異なりますが、リーダーとして考えるべきは何か…。
和気藹々、笑顔満載ながら真剣な議論が展開されました。

課題研究：「いじめや人間関係トラブルの解決に向けた教育実践構想シート」（霜川正幸・下松・末武・須金中）
山口大学「ちゃぶ台大学」コーポート Advanced Course」

子どもや子ども集団が見せる「いじめや人間関係トラブル」は、一人一人の子ども自身、子どもと子ども集団や子どもを取り巻く様々な教育環境等により、全て「個別具体的」に現れるものです。教員一人一人のきめ細かい、温かい「個別対応」が求められ、教員研修においても「個別の具体に応じた指導のあり方」の実践的研修が必要となります。
同時に、本研修プログラムは、ステージ各期のリーダー養成を目的としていることから、「個別事案に対する学級等担任としての指導のあり方」をテーマとするのではなく、「子どもたちがいじめや人間関係トラブルに苦しむことなく、明るく元気に学校・集団生活を送ることができる、そんな学校や学年集団を如何に作っていくか、自分自身が如何にイニシアチブを取っていくか」を協議テーマとします。

そのような「いじめや人間関係トラブルの無い学校、子ども集団」を形成するために、あなたの学校で「取り組んでいること」や「ぜひ取り組みたいこと」について、優先順位を付けて「5つ」書き出してきて下さい。
その、あなた自身の熱い教育の愛情、ほとばしる使命感、研ぎ澄まされた感性、知見や経験に裏打ちされた実践や構想について、時間の許す限り交換しましょう。

（1） 理念や思い「一人一人が大切にされ、連帯感のある学級づくり」の徹底による攻撃（いじめ）の構図の排除
「年度初めに、担任としての決意を明確に示す（共通の規準・基準をつくる）、指導上の配意事項を決める」
1. 決意「この担任が絶対に許さない3か条」　①一人一人の「人としての尊厳や存在価値」を傷つけたとき　②一人一人の「身体・命」を傷つけたとき　③一人一人の「心や感情」を傷つけたとき　担任は絶対に許さない。
2. 指導上の配意事項　「一人一人を大切にし、連帯感のある学級をつくる」　①個人（一人一人）が人として尊重・信頼される思想がある　②個人（一人一人）が正しく理解・認識される機会や手段がある　③個人と個人が集団として高め合える学習の機会や場面がある　④個人と集団の関わりの振り返り、成長の振り返りが共有される　これらに配意して授業や活動を組むこととしていた。

（2） 人間関係づくりのGWT、エンカウンター、SST、ピア・サポート等の意図的導入による人間関係力の育成
「人間関係づくりを構造的に捉え、目的やタイミングを考えてアクティビティーを考える」
1. GWTの種類「人間関係づくりの内容構成をふまえて」　①相手や自分を知る（Who am I？　スゴロクTalk等）　②一人一人の情報で組み立てる（マラソンランナー等）　③聴き方・話し方を学ぶ（何ができるの？　学校はどこ？等）　④力を合わせる（先生マンション等）　これらを組み合わせながら進める。
2. 指導上の留意事項　子どもたちは、「べき論」だけでは変容しない。管理、説教、説諭の中に、「あるべき姿」を感じて圧力と感じる子どもも多い。圧力は変容に繋がらない。自己教育力を育み、伸ばす中で人間関係を考えさせ、いじめの未然防止を図りたい。

（3） 一人一人の基本的生活習慣・規律の確立を疎かにしないことが、いじめの未然防止につながることの理解
「学級経営、学級づくりが目的ではない。学級経営、学級づくりを通して人間を育てる、教育する、攻撃を許さないことが大切」
1. 個の自立がカギ「個あっての集団、人間関係」　①自分自身をきちんと管理させる（かまぼこプロジェクト、サンクスツリー等）
2. 道徳教育は重要　人間関係を豊かにする、質しくする、人間　＝　道徳の時間の充実が必須。様々な体験活動、学習、人間関係上のトピック等の中に、道徳的価値に関わる行動や行為を見抜き、内容項目と重ねあわせながら価値づけるとともに、人間関係づくりを意識したい。

（4） 生徒指導部会、いじめ対策委員会等の常設や構成員検討による「未然防止」「早期発見」「即時対処」等の充実
「生徒指導・教育相談の充実・強化は、風通しの良い学校組織・体制づくりから」
1. 指導体制の整備　①生徒指導部会、いじめ対策委員会の常設化　②管理職・生徒指導主任・教育相談担当・学年主任・生徒指導＋養護教諭・SC・SSR等の人員構成の工夫　③終了後の検証による共通理解
2. 組織・機関・団体等との連携・協働は効果がある　①他校種との連携　②児相、警察、法務局、適応指導教室、フリースクール、市教委、市役所やPTA等との連携　③教職員研修の充実（AFPY、アンガーマネジメント、生徒指導研修等）

（5） 保護者や地域住民に対する情報発信、意識や考え方の共有等による、地域の「いじめを許さない教育風土づくり」
「学校の中にクローズされる教育活動や評価観ほど、寂しく、悲しい、一面的なものはない」
1. コミスクの仕組みを利活用する　①保護者や地域住民の中に子どもを出す　②学外の人間関係や評価観で子ども一人一人を認める　③学外の評価を校内の教育活動や個別支援に反映させる
2. 積極的な情報発信と啓発は、地域の教育風土づくりに効果抜群

ありがとうございました！（受講者の感想から）

いじめの対策のための組織づくりについて考えることができました。「学級目標を話し合ってつくる」「学年の先生のお誕生にサンキュー会を生徒企画で実施する」「地域の方と学びたい授業を生徒が考える」等、生徒が参画する活動を楽しそうに語られる先生方の姿からも、その効果を改めて感じました。若い方の柔軟な発想にもふれ、現在、学校で行っている活動を「生徒の参画」という視点で見直してみると、方法によっては「いじめの防止となる温かで確かなつながりづくり」ができるのではと気付かされました。
また、霜川先生の振り返りでは、いじめの予防、対応、開発という視点を頂き、日頃、現場において何となく「教師の勘」というものに頼りながら後手で行ってきたように感じるいじめに関する取組を今一度整理し、見通しをもった取り組みをしていきたいと感じました。（教員）

印象的であったのはビジョンの共有と記録をとるということ。いじめ対応についても組織がビジョンを共有し、育てたい子ども像と照らし合わせて生徒指導を行っていくべきであると学んだ。
記録をとるということは初めてのことで驚いた。いじめや生徒指導についての記録をとることで、いつどのような時にいじめ等が起こりやすいかを予測し、未然に予防することが出来るということを学んだ。また、記録し、パターン化することで類似の問題に反省を生かした対応をとることが出来るということも非常に効果的な取り組みであると感じた。（学部卒院生）

周南地域の先生方や会員の皆さんからコメントを頂きました（県内巡回公開講座型開催について）

今回の研修会は、周南地域（周南・下松・光市エリア）で開催させていただきました。登録会員（受講者）の「ちょっとした気分転換!」になったのは事実ですが、なにより、周南地域の先生方の研修や地域の教職員研修の活性化に貢献できたことが一番の喜びでした。
「ぜひ、うちの市町に来て下さい!」コールもお待ちしております (^^) (^^)

「今回は徳山駅ビル開催ということで、いつもとは違う雰囲気で、ゆったりとした気分での学びとなった。」
「徳山駅前の施設は、活気があってとてもオープンな会場でアイデアもたくさん出そうですね。とても良いと思います。」
「自宅から近い場所で、今回のような著名な講師を招聘したレベルの高い研修会をして貰えると、行きやすいし、ためになるし、若い人たちから大学の先生方までとの繋がりや交流も生まれるし。
県内全市町を巡回して貰えると嬉しいと心底思った。」